

第4回日中合同疲労シンポジウム参加報告

博士課程2年 武末翔吾

私は2017年8月26日～28日に中国の瀋陽で開催された第4回日中合同疲労シンポジウム(The 4th China-Japan Joint Symposium on Fatigue of Engineering Materials and Structures)に参加してきました。この会議は3年に一度、日本と中国交互に開催され、今回が4回目となります。前回は2014年に日本の岐阜県高山市で開催されました。今回開催された中国の瀋陽は、世界文化遺産に登録されている建造物が複数ある歴史ある街です。日本からは直行便で約3時間で行くことができ、アクセスも良い場所です。この会議は、日本および中国の研究者から材料の疲労破壊に関する研究内容が発表されます。26、27日の2日間で22件の発表がありました。また、最終日の28日にはテクニカルツアーとして、瀋陽近郊の施設を見学しました。

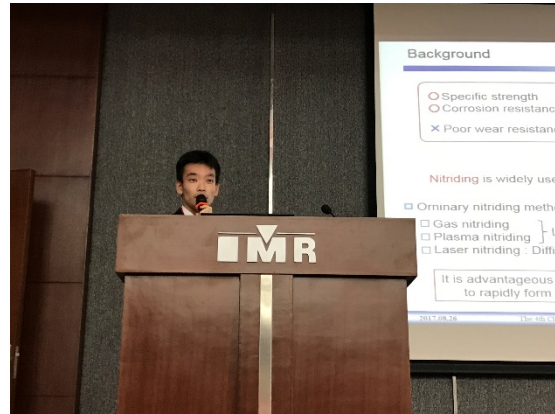
私は初日の8月26日に、“Fatigue properties of gas blow IH nitrated titanium alloy under four-point bending”という題目で発表しました。今回は発表時間が25分と今まで経験した中で最も長いものでした。発表自体はこれまでの反省を活かし、落ち着いて発表できたかと思います。ただ毎回のことですが、質疑応答では英語で的確に質問に答えることができず、更なる努力が必要だと感じました。

本会議では、中国側の発表者はほとんどが材料の疲労に関する著名な研究者の方でした。そのような先生方の発表をたくさん聴講することができ、研究自体に関することや英語での発表の仕方など、たくさんのことを学ぶことができました。

最後になりましたが、今回発表の機会を与えていただいた小茂鳥先生に深く感謝致します。また今回の発表で連名者となっただき、日頃より研究をご指導いただいている広島大学 曙先生、神戸大学 菊池先生に御礼申し上げます。また、現地では小茂鳥先生、曙先生、豊田工業高等専門学校 中島先生、福岡工業大学 朱先生、立命館大学 上野先生、ベンジャミン先生、NIMS 長島様、原子力安全システム研究所 釜谷様、岐阜大学 柿内先生にお世話になりました。また、広島大学 何さん、岐阜大学 韓さんには中国語の通訳等していただきました。御礼申し上げます。



開会の挨拶をされる小茂鳥先生



発表中の私



学会会場の様子



瀋陽の世界遺産の1つ 故宮